

自然観察会報告
ビオトープの生き物観察会 in 静岡ガス
佐々木彰央



アメリカザリガニ釣りの様子

10月6日（日）に静岡ガス静岡支社の敷地内にあるビオトープにて観察会を実施しました。当日の天候は快晴で、とても10月とは思えないほどの暖かな陽気でした。参加者は、最近の観察会では珍しく、子どもから大人まで数多くの方々が集まり、30名以上もの参加がありました。

今回の観察会の目的は、ビオトープで暮らす水生生物とその周辺でみられる植物、昆虫、鳥類の観察で、水生生物の観察をするために特別に許可をもらい、釣りによるザリガニやコイなどの採集も実施しました。

水生生物の観察会を開始して、すぐに子供は水中をのぞき込みアメリカザリガニの釣りに躍起になっていました。大人たちは「やっぱり子供はこうでなければな！ハハハ！」などと言っていました。そのうち子供たちより大人の方が、夢中になって釣りをしている様子がかげえました。こうした大人たちの奮闘のかいもあり、たくさんのアメリカザリガニが釣れ、どの個体も大きく真赤で俗に「マツカチン」と呼ばれる立派なものばかりでした。

こうして釣り上げられたアメリカザリガニは身を剥がされ、今度はコイ・フナを釣るための餌として使われました。このコイ・フナ釣りも大人の方がのめり込み、体長30cmほどのコイやフナを沢山釣り上げていました。子供たちは、大人に習って一生懸命



コイ・フナ釣りに挑戦

釣り方を学んでいました。

その後、当NPOの先生方による昆虫や植物の説明が行われ、敷地内を散策しながら様々な動植物を観察しました。散策途中小鳥のカワラヒワが建物にぶつかって死んでおり、普段近くで見ることの出来ないカワラヒワを間近で観察することができました。

今回の観察会では、多くの生物を目にすることができましたが、その中でも忘れてはならない種類が、近年ほとんど見ることができなくなったミナミメダカです。県内のミナミメダカの生息地は他の地域からの移入メダカにより交雑が進み、元来のミナミメダカは現在ほとんどみられません。一方、静岡ガスでみられたミナミメダカはDNA鑑定から静岡に古くから生息する個体群であることが分かっており、静岡の貴重なミナミメダカが今でも見られる貴重な場所となっています。静岡ガスはその用地を長いあいだ保持し、環境を保全してきたことで、地域独自のミナミメダカを守ってきました。今後も、このような環境が失われることのないように私たちも協力していければと思っています。

今回の観察会は静岡ガスの方々の全面協力により実施することができました。静岡ガスの関係者の方々には心から感謝しています。